

地域医療・高齢者対策に関する 特別委員会視察研修

平成24年5月9日(水) 10日(木)に、地域医療・高齢者対策に関する特別委員会の視察研修を行いました。

今回の視察は、病院の運営や医師・看護師確保について特定医療法人中央会 尼崎中央病院の理事長及び看護部長から、また市民の健康の保持・増進と医療費適正化を目指し実施している、「ヘルスアップ尼崎戦略事業」について尼崎市の担当職員の方から、それぞれご説明をいただきました。

尼崎市でも、国保財政健全化が喫緊の課題であり、市財政を逼迫させる



病院内を視察



尼崎市での研修

状況であったため、対策として、「収納率向上対策」と「医療費適正化」を目標に掲げ、それぞれ取組んでおりました。そのうち「医療費適正化」の戦略として、予防対策に重点をおき、保健指導の義務付けや、若い世代からの受診の定着を図ることにより生活習慣改善のきっかけ作りをするなど、医療費適正化に向けた効果が見てとれた事業でした。

山武市でも国保財政の健全化は喫緊の課題であることから、今後の市政運営に大変参考となる研修となりました。

議会運営委員会視察研修

平成24年7月5日(木)

7日(土)、議会運営委員会の視察研修を行いました。今回の視察は、防災都市づくりの取り組みについて北海道旭川市の「旭川市総合防災センター」、議会改革の取り組みについて「富良野市議会」、市の活性化・観光客誘致の取組について千歳市にある「道の駅サーモンパーク」をそれぞれ視察してきました。

「旭川市総合防災センター」は、地震等大規模災害時において、想定される災害応急活動の内容に応じた機能を複合的に有する「防災拠点」として、平成20年10月に建設され、災害対応はもとより、消防防災体験学習や訓練などに活用されていきました。

旭川市は、震度4を超える地震を経験してないため、市民の防災への意識が薄かったが、東日本大震災の発生後は、市民の防災に対する関心が

高まったそうです。

富良野市議会は、議会改革を積極的に推進しており、市民にとって、議会がより身近なものになるようにと議会活動の状況や委員会報告等を各地域に外向き、行っていました。議会改革特別委員会の岡本委員長から「昨年度は14か所の会場で議会報告会を開催し、177名の市民の方々にご参加いただいた。」という説明を受けました。

また、「道の駅サーモンパーク」は、水族館が併設されており、新千歳空港からも至近の好立地を生かし、道の駅としてのみならず、「観光拠点」としても大きな役割を担っているものでした。



旭川市総合防災センターでの研修

第48回山武郡市議会議員研修会



7月4日(水)、成東文化会館のぎくプラザで、山武郡市議会議員研修会が開催されました。

当日は、功労者への感謝状が贈呈された後、早稲田大学大学院公共経営研究科教授 北川 正恭先生から「分権時代の議会の役割」という演題でご講演をいただきました。

先生は、戦後から現在までの政治の流れを歴史的な見方から説明してくださいました。

「近年、地方分権一括法が施行され、三位一体改革が推進されて現在に至り、中央集権から地方分権という流れの中、地方自治体が国と対等な立

場になったことを認識しなければなりません。」というお話の後に、徳島県の上勝町では「葉っぱビジネス」の成功により国への依存から自立した自治体になったことなど、具体例を提示しながら説明をされました。

「自立した自治体」を目指すには、議会の立場を明らかにし、地域を変えていく必要があるということも述べられました。

また、この時代の議会の役割として「政策立案能力を強化して、市民の側から政治をつくる時代になっていることを自覚し、議会が何をしているのか市民の皆さんにきちんと伝えるよう努力していただきたい。」と話をされました。

市議会としても、政策立案能力の向上に努め、市民の皆さんとともに、『誰もがしあわせを実感できる独立都市さんむ』に向けて、全力で取りくんでいきたいと思えます。